
超ドキュン勇者口ト

唐揚ちきん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超ドキュン勇者ロト

【Nコード】

N7362Z

【作者名】

唐揚ちきん

【あらすじ】

不良・・・いやもつと性質の悪いそれは『ドキュン』と呼ばれる人種。

そんな人間がヒーローとなり、力を得てしまったらどうなるだろう。これはそんな物語。

1 主人公とは

『勇者になって世界を世界を救ってよ』

目を覚ますと一面真っ白い天井も何も無い変な場所に居て、丸っこい球体みたいな犬の出来損ないみたいのがいた。

「良いぞ」

取り合えず、即答した。

これは、あれだ。異世界冒険ストーリーにありがちなスタートだ。俺みたいなあからさまな主人公タイプは、稀によくこういうのに巻き込まれてしまうものだ。

ああ、世界が俺を放っておかない。自分の主人公属性が憎い。

『ず、随分早く決断してくれるんだね……。正直驚いたよ。普通なら、「何故？」とか、「どうして私が？」とかぶつぶつ文句を言ってくるんだけど』

「それは俺と違って主人公度が低い奴らだからだろ？そんな奴らと一緒にするな。気分悪い」

俺は自分が主人公であることを自覚している。

例え、この世の全てが敵に回ったとしても自分が正しいとはっきり言える。

出来損ないドッグはその手抜きくさい表情を変えずに、俺に慌てたように語りかけてくる。

『気分を害したなら謝るよ。それで早速世界を救う旅に出てほしいんだけど……。』

「最強にしるよ」

『え？』

「俺を最強にしる」

『き、君は何を言ってるんだい？』

出来損ないドッグは戸惑ったような声を出す、表情がないので酷くアンバランスだ。キモい。殴りたい。そして、一番腹が立つのは物分りが悪いことだ。見た目だけでなく、頭も相当悪いらしい。

「お前、頭悪いな。勇者で主人公と来たら最強に決まってるだろ」

『まさか……それは君をいきなり強くするってことじゃないよね？』

「そつだ」

ようやくこの犬畜生にも俺の言いたいことが伝わったみたいだ。不要な手間をかけさせやがって。このクソが。

『君は勇者というものを履き違えているよ。勇者とは経験を積み、戦いの中で成長していくものなん……』

「ごちゃごちゃうるさい！俺は最初から強いのがいいんだよ！！ゲームとかもチート使って強くしてから始めるタイプなんだよ！！」
ガシッと出来損ないドッグの顔をわしつか鷲掴みにする。

「俺の……」

腕の中で暴れる出来損ないドッグを無視して、空いてる方の手で扉を開く。

さあ、冒険の旅へレッツ・ゴー！

2 / 異世界とは

さて、俺こと至高の主人公^{ヒーロー}、有島露斗^{るこ}は異世界に着いた・・・はずなのだが。

「おい、これはどういう事なんだ？出来損ないドッグ」

俺は小脇に抱えた相変わらず不細工な丸っこい犬に尋ねた。

「何がだい？勇者」

腹の立つことに無表情にもかかわらず、不思議そうな声色で聞き返したくる。

地面はアスファルト。壁はブロック塀。電信柱が理路整然に並んでいる。

そこはどこからどうみても現代の都市の中だった。

ギョツと指の跡^{あと}が食い込むほど強く驚掴みにして再び、出来損ないドッグに尋ねる。

「俺が行くのは異世界じゃなかったのか？お前は俺を謀^{たはか}ったのか？」
返答次第ではただじゃ置かない。そう言外に込める。

「痛い！痛い！ちょっと待ってよ。ここはれっきとした異世界だよ！君がいた世界とはちゃんと異なっているんだ！」

短い手足をバタつかせる出来損ないドッグは慌てて説明を始める。仕方ないので俺はアイアンクローを少し緩^{ゆる}めてやる。ここで逃がさないのが大人の賢い手段だ。

「その反応はこの世界が君の想像していた物と違ったってことなんだろう？」

「そうだ」

俺はよくある剣と魔法のファンタジー的な中世ヨーロッパのような世界を想定していた。

というか異世界と言え、まずそれを思い浮かべるのが当然だろう。俺はどこもおかしくない。

「僕は最初に異世界としか言っていないよ。実際の異世界がどんな物か、その説明はしていない。だからその反応は理不尽だ」

「・・・つまりお前は俺を騙だましていたという事でファイナルアンサー？」

ビキビキと出来損ないドッグを握る俺の腕に血管が浮き出ている。

「ファ、ファイナルアンサー・・・です・・・」

多分、出来損ないドッグは本気でびびったんだろう。口調が敬語になっていた。

だが、もう駄目。こいつは俺の逆鱗に触れてしまった。俺に未練はなかった。

「残念！」

「ちよつとまッ・・・」

俺は出来損ないドッグはとうとう物言わぬ肉団子と化した。

その辺にポイ捨てるのもなんだから、近くにあった空き缶専用のゴミ箱に突っ込んで置いた。

間違いなく、業者の人が度肝どきまを抜かすだろうが、俺は不良なので気にしない。

しかし、ここが本当に異世界だとして、勇者が必要な理由って何だ？
魔物とが出てきたら自衛隊が飛んできそつなんだが。

2 / 異世界とは（後書き）

スローテンポな投稿になりますがそれでもよければ読んで下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7362z/>

超ドキュン勇者口ト

2011年12月28日23時50分発行